



芝・品川の海を語ろう 江戸前ESDしながわ塾

ミニ瓦版 第4号



東京海洋大学 江戸前ESD協議会 〒108-8477 東京都港区港南4-5-7 東京海洋大学海洋科学部

第4回江戸前ESDしながわ塾

江戸前の漁業を聴く

師田 彰子（全国内水面漁業協同組合連合会）

去る7月17日（土）、梅雨明けの輝くような日差しの下、江戸前ESDしながわ塾第4回「江戸前の漁業を聴く」（コーディネータ：馬場治（ばば・おさむ）教授；専門は漁業経済学）が開催されました。今回は、東京湾で代々漁業を営まれている6代目江戸前漁師の鈴木晴美（すずき・はるみ）さんに、芝の漁師町をご案内をいただき（第1部）、その後、江戸前の漁業についてお話をうかがいました（第2部）。

第1部 芝の漁師町歩き

第1部では、晴美さんと馬場教授（写真1）の案内で、受講生23名、スタッフ15名で町を歩き、芝が漁師町であった頃の名残や遺構を案内いただきながら、昔の海岸地形や漁村の姿を思い浮かべ、江戸の芝浜・金杉（かなすぎ）浦への時間旅行を楽しみました。

集合場所である金杉橋のたもとの公園を出発、まず屋形船が数多く係留されている古川の舟溜まりに降ります（写真2）。ここからは、東海道線の遺構であるレンガ造りの橋脚をのぞき見ることができます。昭和30年代までノリ養殖も営んでいらした晴美さんご一家は、橋脚のすぐ脇の土地を海苔干し場として使っていました。ここは現在はマンションの敷地内となっています。

JR線（昔の海岸線）に沿って南（JR田町駅方面）に歩くと、右手には立派なお寺が何軒もあります。さらに第一京浜道と交差する道路（明治40年の地図では濠）を渡ると、落語の「芝浜」の舞台である「雑魚場（ごこば）」跡に着きます。このあたりの運河は昭和45年に埋め立てられ、現在は「本芝（ほんしば）公園」となっています。ここで雑魚場の名残りをもっともとどめているのは、かつては水路として東京湾とつながっていたJR線のガード下通路です（写真3）。この線路をくぐり、東側の芝浦公園に出ると、東京モノレールがその上を走っています。芝浦公園を右手に見ながら進めば、前方に埋立ての隙間として残された水路があり、品川にある船宿の遊漁船が係留されていました（写真4）。

芝・品川の海を語ろう 江戸前ESDしながわ塾

第4回 江戸前の漁業を聴く

プログラム

日時：2010年7月17日（土）13:00-16:00

場所：金杉橋から芝の町を歩き、
ふりかえり会場（iju25）へ

13:00 塾長ご挨拶 河野 博（東京海洋大学）

13:05 本日の内容の紹介

コーディネータ：馬場 治（東京海洋大学）

案内人：鈴木 晴美（江戸前漁師）

13:10 芝の漁師町を歩く

金杉橋→昔の海苔干し場→寺町→雑魚場跡→
芝の昔の料亭街→重箱堀→ふりかえり会場

14:20 レストランiju25にて休憩

14:30 町歩きのわかちあい

14:45 鈴木晴美さんのお話

15:20 本日のふりかえり

15:55 閉会の挨拶と次回のお知らせ



写真1 鈴木晴美さんと馬場治教授。金杉橋南の公園に集合、出発しました。この裏手は古川の舟溜まりです。



写真2 金杉橋から東京湾方面を臨むと、屋形船や遊漁船が所狭しと並んでいるのが見えます。写真上部は首都高速、前方奥に京浜東北電車が走っているのが見えます。

ここで交差点を左に曲がり、芝浦運河沿いに立つ瀟洒な瓦斯(ガス)灯(レプリカでしたが…)をチェック。この道を線路側に戻れば、昭和30年代まで港湾の町として賑わっていた芝浦の料亭街です。その面影は、今なお健在の料亭「牡丹」や、1936年(昭和11年)に芝浦花柳界の見番(けんばん)として建てられた木造2階建ての旧「協働会館」(平成21年港区指定文化財)(写真5)がとどめていて、そのたたずまいに、昭和初期の華やかなりし頃への浪漫をかきたてられました。

運河に戻り、ビルの谷間にぽっかりと四角くあいた水面、「重箱堀(じゅうばこぼり)」(写真6)を眺めてから、もう一息歩き、橋を渡って、海岸通りのゆりかもめ線「日の出駅」近くにある、レストランiju25に到着しました。

およそ1時間の炎天下の町歩きでしたが、参加された方全員が無事にゴールされました。



写真3 芝浜の雑魚場と東京湾をつないでいた水路。現在はJR線をくぐる歩行者・自転車用の通路となっていて、本芝公園と芝浦公園をつないでいます。



写真4 芝浦公園の東側に埋め立てられずに残された水路には、遊漁船が係留されていました。



写真5 1936年(昭和11年)に芝浦花柳界の見番(けんばん)として建てられた木造2階建ての旧「協働会館」(平成21年港区指定文化財)。



写真6 埋め立て地にぽっかりと水面が空いている、「重箱堀」。重箱のように四角いことから命名されたそうです。



【分間江戸大絵図】文政11年(1828)

図1 第4回江戸前ESDしながわ塾で歩いたあたりの1828年の地図。現在のJR線路は海岸線とほぼ一致しています。(出典：「まち探訪ガイドブック」(港区2007))

第2部 町歩きのわかちあいと江戸前漁業のお話

第2部の会場であるレストランiju25では、冷たい飲み物で喉を潤しながら、一緒に歩いたグループごとに「わかちあい」をして、町歩きの感想や「今日の発見！」を参加者のみなさんに語っていただきました。

そして晴美さんのお話にはいる前に、なんと、晴美さんのお父さんと息子さんが刺し網漁を目の前の運河で実演してくださいました(写真7)。めったに見られない魚の様子に参加者一同、驚きと感謝！でした。

晴美さんは、たった今、歩いてきた町の終戦直後の航空写真や昭和30年代の海苔干し場や遊漁船を櫓を漕いでいた頃の写真、そして、現在のアナゴ漁の様子をDVDなどを映しながら、東京湾漁業の今昔について語っていただきました。芝浦での漁業は、築地市場に直近で直接出荷ができることや鮮度が良いことが利点だそうです。

最後の質問の時間、会場からの「江戸前の漁業をなくさないためにどうすればよいですか」との問いに、

「こういう場でみなさんに東京の漁業を知っていただくことが一番大事だと思っています。」

「日本の食糧の自給率がすごく下がっています。それを上げるためには、昔からある第一次産業をもう1回見直さなくてはいけないと思っています。東京に海は必要ないのではないかというご意見があった時代もありましたが、やはり近いところにそういう場所があるということを大事にしたいと思います。」

「私は毎年、小学校3年生を対象に『運河めぐり』を



写真7 レストランの前の運河で刺し網漁を実演して下さいました鈴木晴美さんのお父さんと息子さん。

実施していますが、ゴミが浮いているけど、どうしてもこういうことをなくせるのか、とかいうことを小さい時から考えてもらわないと海はきれいになりません。埋め立てを進めるのではなく、この海をどう大切にしているかということを考えてもらおうと、東京の漁業が生き残っていられるのかなと思っています。」

と答えられました。

最後に、小堀信幸さん(船の科学館)から東京湾内湾漁業興亡史のお話を、藤塚悦司さん(大田区郷土博物館)からかつての海苔漁業のお話をうかがい、第4回「江戸前の漁業を聴く」は無事に終了しました。

(もろた・あきこ)



図2 Google Mapで見る足跡。図1と比べてご覧ください。かつての海岸線がほとんど線路となっています。

市場

市場は夜も開いているのか？

築地へ直接水揚げしてるのはどの地域の漁業者か？

江戸前の漁師

後継者の心配は？

この仕事の感動と喜びは？

芝や港区の漁業者の数は？

江戸時代から続く漁師は何世帯くらいいるか？

その他

漁師の仕事をはじめたのはいつから？

江戸前の漁業を持続するためには？

出身小学校は？

漁師の志望動機は？

鹿島橋と香取橋は、漁業と関係がある？

羽田滑走路埋め立ての漁業への影響は？

漁撈

一番大変な事は？

採業時間、採業日数は？

レインボーブリッジの漁業への影響は？

いつ頃作られたベカ船なのか？

漁法は？ 繁忙期は？

漁業で生活が成り立つのか？

一日の水揚げ量は？

漁業権と使用料は？

出漁は潮と魚の生態とどちらに依存するのか？

魚介類

アサクサノリの養殖は浅草周辺で？

スズキ以外の東京湾の美味しい高級魚は？

泥臭いアナゴは何故？ ウナギは獲れるのか？

30年前のスズキは油臭かったが、今は？

ここ10年の水揚げ量や1尾当たりの大きさの変化は？

羽田沖でハマグリは獲れるか？

獲れる魚の種類は今昔は？

運河の魚は食べれるのか？

スズキの体色による味の違いは？

図3 ふりかえりてみなさんから出された質問。(作成：松田祐樹(海洋大・院2年))

江戸前の漁業を聴く 今日の発見 ～ ふりかえりシートから ～



今日の発見

- スズキの漁獲高が上がっている。
- 東京湾ではいろんな魚がとれること。
- お台場周辺で刺し網漁でスズキを獲っている。
- アナゴが羽田の海で獲れるなんて…。
- 海苔がいたるところで養殖されていたこと。
- 現在の東京都の海に漁業権はないこと。
- 江戸前漁業を生業とされている方の生活について垣間見ることが出来たこと。しかも楽しんでいらっしやるご様子であること。
- 「本芝材木町」のいわれがわかった。
- 海岸線が思ったより内側にあった。
- 東海道線(鉄道)の線路が海岸沿い(海の中)を通っていた理由。
- 雑魚場の位置。
- 雑魚場や重箱堀から先は水路であること。
- 海と共に発展してきた芝地区の歴史。
- 東海道線が防波堤を走っていたこと。
- 水質と潮の流れとは別で、魚に影響する。



写真8 鈴木晴美さんのお話を聴く参加者のみなさん。

しながわ塾ご参加のみなさまへ

しながわ塾第4回では、梅雨明けのカンカン照りの下での町歩きご参加くださり、どうもありがとうございました。

来月はいよいよ最終回、第6回「芝・品川のを語ろう」(9月18日；東京海洋大学楽水会館1階大会議室)です。今まで芝・品川の海を見てこられたみなさまに、これからの芝・品川の海がどうあってほしいのかを語っていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

残暑厳しき候、ご体調を崩されぬようお気を付けてお過ごしください。

江戸前ESDしながわ塾事務局